

## 三重県水産研究に100年（創立百周年記念誌）

### 目で見る100年

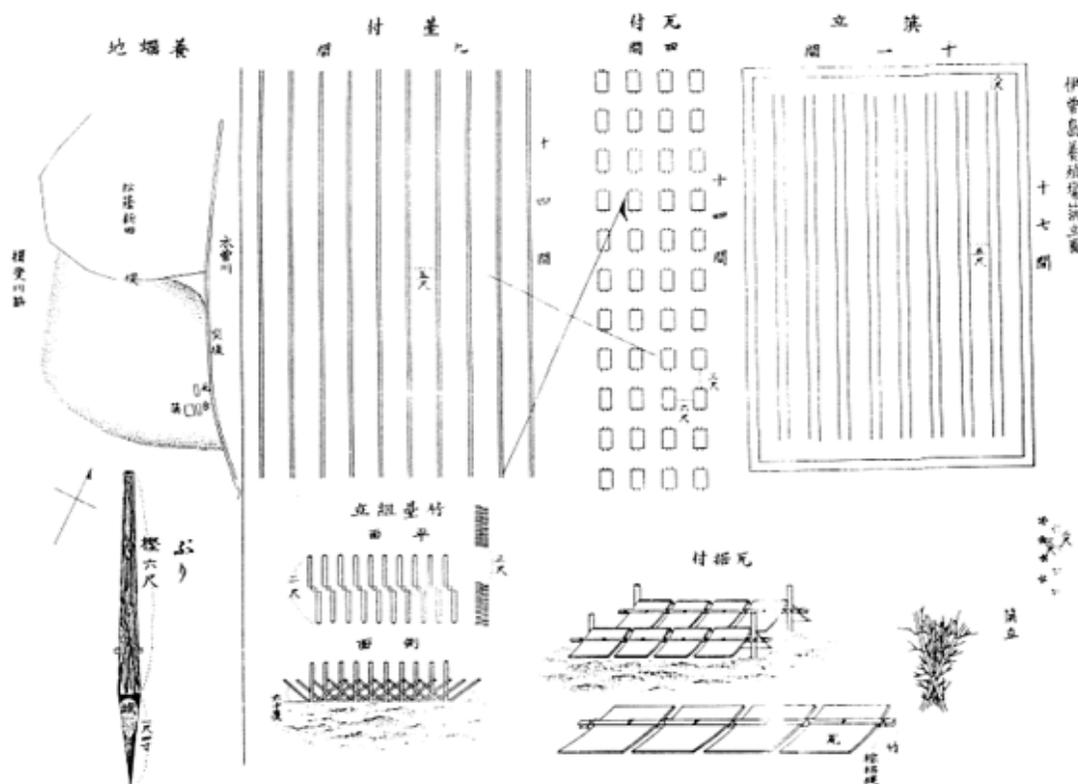
#### カキの養殖試験

明治33年度の試験場事業報告になると、養殖の事業が増える。1. 珠母（あこやがい） 2. 牡蠣（かき） 3. 伏老（ばいがい） 4. 紫菜（あまのり） 5. 鯉鰻鱈（こい、うなぎ、すっぽん）が試験されている。

カキは古くから渡利（現・海山町）や揖斐川河口、宮川河口、それに飯濱（磯部町）などが産地であったが、カキ養殖を拡張する試みとして、揖斐川河口の伊曾島と英虞湾の鵜方村地先に実験場を設けている。カキ養殖試験はその後も年々実験場を増やして行った。



カキの図

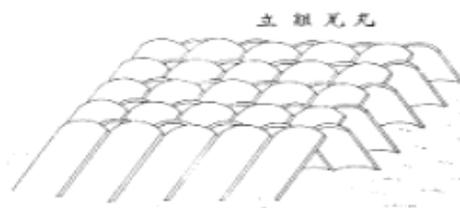


この図の表題は「ヒビ立図」となっているが、試験場ではヒビ立（ひびだて）、瓦付（かわらつけ）、台付（だいつけ・竹組の台）の3つの方法が試みられたことがわかる。



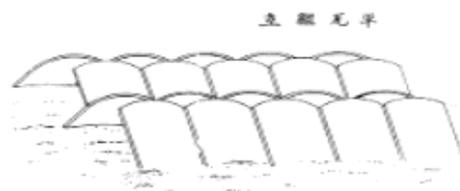
三

瓦つけのカキの稚貝の図



丸瓦つけの図

平瓦つけの図



立組瓦平



明治33年ごろの鵜方（現・阿児町鵜方）のカキ養殖場

[ページのトップへ戻る](#)

## 本ページに関する問い合わせ先

### 三重県 水産研究所 企画・水産利用研究課

〒517-0404 志摩市浜島町浜島3564-3

電話番号 : [0599-53-0016](tel:0599-53-0016) ファクス番号 : 0599-53-1843 メールアドレス : [suigi@pref.mie.lg.jp](mailto:suigi@pref.mie.lg.jp)

各ページの記載記事、写真の無断転載を禁じます。 Copyright © 2015 Mie Prefecture, All rights reserved.